

岩手県北地域におけるダツタンソバの栽培法

藤田智美・長谷川 聡・大清水保見
(岩手県農業研究センター県北農業研究所)

Cultivation Method of Tartary Buckwheat in the Northern District of Iwate Prefecture
Tomomi FUJITA, Satoshi HASEGAWA and Yasumi OSHIMIZU
(Iwate Agricultural Research Center, Kenpoku Agricultural Institute)

1 はじめに

健康食や機能性食品ブームから、近年普通ソバに比べてルチン含量が高いダツタンソバが注目を集めている。しかし、栽培事例が少ないため、その栽培は普通ソバに準じて行なわれているのが現状である。そこで、昭和60年頃から岩手県軽米町で栽培されているダツタンソバ系統(以下、軽米在来系統と記す)を用いて、岩手県北地域におけるダツタンソバの栽培法を検討した。

2 試験方法

- (1) 試験場所：県北農業研究所内圃場
- (2) 土壌条件：表層腐植質黒ボク土
- (3) 試験年次：平成14年～15年
- (4) 供試系統：ダツタンソバ(軽米在来系統)
普通ソバ(岩手早生)
- (5) 播種様式：条播，畦幅30cm
- (6) 施肥量：堆肥2t/10a
基肥窒素量は下記のとおり
- (7) 試験区の構成
 - 1) 試験①(播種適期の検討)
 - a. 播種期：(H14) 5月28日，7月22日
(H15) 5月20日，6月5日，
6月20日，7月8日，7月22日
 - b. 播種量：6kg/10a
 - c. 基肥窒素量：2kg/10a
 - 2) 試験②(播種量の検討)
 - a. 播種期：(H15) 6月5日，6月20日，
7月8日，7月22日
 - b. 播種量：4kg/10a，6kg/10a
 - c. 基肥窒素量：2kg/10a
 - 3) 試験③(施肥量の検討)
 - a. 播種期：(H15) 6月5日，6月20日，
7月8日，7月22日
 - b. 播種量：6kg/10a
 - c. 基肥窒素量：2kg/10a，4kg/10a

3 試験結果及び考察

(1) 播種適期の検討

普通ソバの播種適期である5月下旬(夏ソバ播種時期)と7月下旬(秋ソバ播種時期)までの間で、ダツタンソバの播種適期を検討した。5月下旬から6月下旬頃の播種では、草丈が150cm以上になり、倒伏程度が大きかった(図1)。そのため、子実の脱粒が多くなり、収量は低かった(図2)。収量が最大となったのは7月第2～4半旬頃に播種した場合で、このとき草丈は100～130cm程度となり、倒伏程度は小さく、子実重は200kg/10a前後を確保できた(図1, 2)。また、千粒重は、5月下旬播種では15g程度であったのに対し、7月播種では18～19gとなった(図2)。

普通ソバである「岩手早生」と同時期に播種した場合、ダツタンソバの開花期は普通ソバより10日程度遅く、成熟期もやや遅かった。また、草丈は普通ソバ並～高くなり、普通ソバよりも倒伏しやすかった。主茎節数と分枝数は普通ソバより多く、全重は普通ソバ並であったが、子実重は普通ソバの3～10倍程度となり、年次による変動が小さかった(表1)。

(2) 播種量の検討

播種量について、普通ソバ並の6kg/10aと普通ソバよりも少ない4kg/10aを比較したところ、4kg/10aを播種したときに草丈がやや高くなる場合があったが、倒伏程度に差は認められなかった(図3)。収量は、4kg/10a播種したときにやや高くなる傾向があり(図4)、岩手県北地域においては、ダツタンソバは普通ソバよりも少ない播種量4～6kg/10aで栽培できることがわかった。

(3) 施肥量の検討

基肥窒素量について、普通ソバ並の2kg/10aと4kg/10aを比較したところ、草丈に特に差は認められず、倒伏程度にも差は見られなかった(図5)。収量は、4kg/10a施用したときにやや高くなる場合があり(図6)、岩手県北地域においては、ダツタンソバは普通ソバ並の基肥窒素量2～4kg/10aで栽培できることがわかった。

4 まとめ

ダツタンソバは普通ソバと異なり自殖性であることから天候に受粉が左右されない。そのため、倒伏さえしなければほぼ安定した収量が見込めるものと考えられる。岩手県北地域におけるダツタンソバの播種適期を検討し

たところ、5月下旬から6月下旬頃の播種では草丈が高くなり、倒伏程度が大きくなることから低収となった。そのため、播種時期は、倒伏程度が小さくなり、収量が最大となった7月第2~4半旬が最も適していた。また、播種量は普通ソバより少ない4~6 kg/10a、基肥窒素量は普通ソバ並の2~4 kg/10a で栽培が可能であった。これらの栽培法に基づいて栽培を行なうと、収量は200~250 kg/10a 程度が見込め、千粒重は18~19 gとなる。

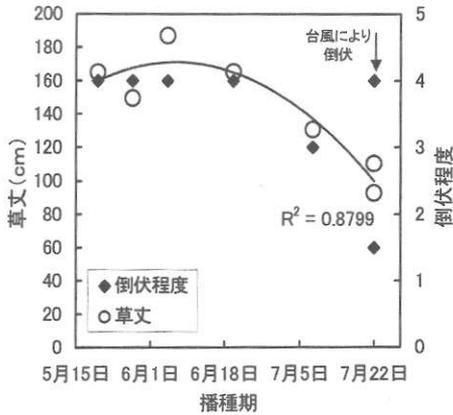


図1 播種時期と草丈・倒伏程度の関係

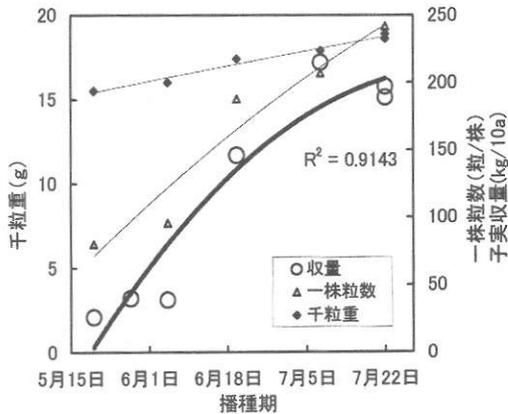


図2 子実収量と一株粒数・千粒重
一株粒数は未熟粒を含む。

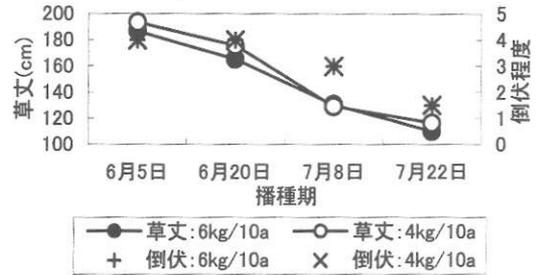


図3 播種量と草丈・倒伏程度の関係

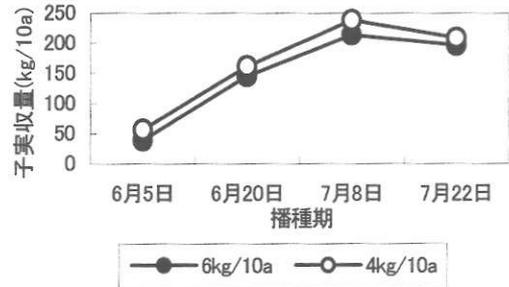


図4 播種量と収量の関係

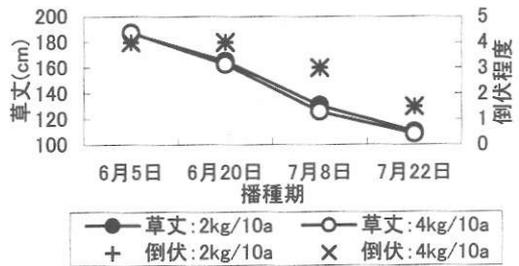


図5 施肥量と草丈・倒伏程度の関係

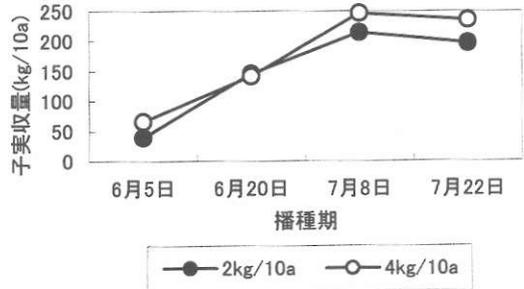


図6 施肥量と収量の関係

表1 普通ソバとの生育ステージおよび成熟期生育・収量性の比較

品種 系統名	試験 年次	播種 月日	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	草丈 (cm)	主茎節数 (/株)	分枝数 (/株)	全重 (kg/10a)	子実重 (kg/10a)	リットル重 (g)	千粒重 (g)	倒伏 程度
岩手早生	H14	7.22	8.16	10.4	94.9	9.3	1.8	544	60	579.2	31.2	多
	H15	7.22	8.18	10.23	84.4	9.8	1.2	413	18	-	18.0	無
軽米在来	H14	7.22	8.25頃	10.9	92.6	15.2	5.1	417	189	643.6	18.9	甚
	H15	7.22	8.31頃	10.23	110.3	19.6	6.3	426	197	669.7	18.6	微~少

※開花期：全株数の40~50%が開花始に達した日。

H14は10月1~2日にかけて通過した台風により倒伏程度が大きくなった。H15の成熟期は、降霜後となった。